

農政局だより@ひょうご

2020.09
H-SATT

〒650-0024

神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎

TEL:078-331-5924 email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp



農林水産大臣からの激励状を農業高校生に手交

日本学校農業クラブ連盟では、将来の農業のスペシャリストとして知識・技術等を育成することを目的として「日本学校農業クラブ全国大会」を昭和25年から毎年開催されております。

本年は、静岡県において、第71回の全国大会が開催される予定でしたが、新型コロナウィルスの影響により大会開始以来、初めて中止となりました。

農林水産省では、日頃の学習の成果を披露する全国大会に出場するという目標がなくなり、農業高校生は残念な気持ちを抱いており、このような状況の中、不安と残念な気持ちを抱えながらも農業クラブ活動を継続している農業高校生を激励し、将来の担い手として、立派に成長されることを期待していることを伝えるため、農林水産大臣からの「激励状」を日本学校農業クラブ連盟加盟校に贈ることとしました。兵庫県内11校には、9月8~11日に兵庫県拠点より各校の農業クラブの代表者等に手交しました。

農業高校生からは、来年度は兵庫県内で全国大会が開催される予定となっているので、農業クラブ活動を継続して頑張りたいとの発言がありました。



「フード・アクション・ニッポン アワード2020」及び 「味の匠応援プロジェクト」の募集について

農林水産省では、国産農林水産物の消費拡大を目指し、日本全国の優れた产品を発掘・表彰いたします。

今年度は「日本の魅力ある产品を、今だからこそ知ってほしい」をテーマに、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の時代に根付く、新しい地域の逸品を募集します。また、新型コロナ感染症の影響を受けている料理人と産地がワンチームとなって、地域の食材を活用した新たなメニュー・商品等を開発する取組を募集する「味の匠応援プロジェクト」を同時開催します。

応募締切：令和2年10月5日(月) ※郵送の場合は当日必着

(詳しくは、こちら：外部リンク) <https://fanaward.jp/>





いちご狩りで地域活性化を！

赤穂市有年原の蟻無山の麓でいちごのハウス栽培をされている、ありなしファームの森田知善さん（45歳）にお話を伺いました。

兼業農家であった父親が定年後にイチジク栽培始めたのをきっかけに、実家の将来のことを考えはじめました。妻の後押しもあって、長年実家から離れて勤めていた会社を辞め、長男である自分が就農して実家の後を継ぐことにしました。

就農に向けて、就農支援センターで1年間いちご栽培の研修を受け、平成28年3月に就農しました。

現在、地域から預かった15aの農地にハウスを建て、紅ほっぺ、章姫、恋みのりの3種類のいちごを栽培しています。

毎年、食べた人から「美味しい！」と言ってもらえることが何よりのやり甲斐となっています。また、地域の活性化に繋がればという思いで始めたいちご狩りは、食べ放題で3種類の食べ比べができる、2月頃から5月末頃まで楽しむことができます。また、年間3千人が来園してくれますが、中にはシーズン中に何度も来園してくれる方も嬉しい限りです。

今は、12月からの収穫に向けて7千本の苗を育てていますが、7千人の自分の子供と思い、何を求めているのかを日々考え、美味しいいちごになるよう、温度管理に水管理、肥料の加減を微調整しながら栽培しています。

将来的には法人化を行い、ハウス前での直売所経営やイチゴジャムなどの6次化も考えながら安定した経営を目指し、次のステップとしてハウスの増設も検討しているところです。



現在、地域の活性化を目指す「町づくりの会」が発足しています。私もメンバーの一員となっており、どの様なことをすれば町が活性化するのかを考えています。例えば、高齢者が歩いて買い物に行けるような店舗の整備、レンゲ畑などの観光スポットの整備など様々な取り組みを検討しています。「ありなしファーム」も地域活性化の一役になるよう今後も美味しいいちご作りに努力していくたいと思っています。

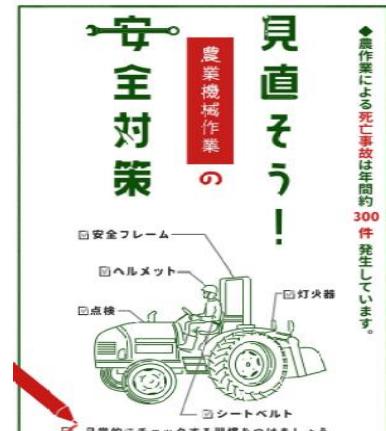
令和2年秋の農作業安全確認運動 実施中

農作業中の死亡事故は毎年約300件発生しており、農作業事故防止に向けた対策を強化し、事故件数を減少させることが極めて重要な課題となっています。

農林水産省は、農作業死亡事故を減少させるため、9月から10月までを農作業安全対策の重点期間として、「令和2年秋の農作業安全確認運動」を実施します。令和2年の重点推進テーマは「見直そう！農業機械作業の安全対策」です。

（詳しくは、こちら）

<https://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sizai/200812.html>



「第5回 ジビエ料理コンテスト」の募集開始

～国産のイノシシ肉・シカ肉を使用し、多くの人に、安全でおいしく提供できる料理を募集～



農林水産省は、ジビエの全国的な需要拡大と鳥獣利活用の推進とともに消費者への普及啓発を図るため、「第5回ジビエ料理コンテスト」のレシピを募集します。

農村地域で深刻な被害をもたらす有害鳥獣の捕獲数が増加傾向にある中で、これを地域資源としてとらえ、野生鳥獣肉（ジビエ）として有効に活用する前向きな取組が広がっています。

このような状況の中で、農林水産省では、平成28年度からジビエの普及啓発や調査実証等に取り組む「鳥獣利活用推進支援事業」において、ジビエの全国的な需要拡大を推進しています。

本コンテストは、この一環として事業実施主体である「一般社団法人日本ジビエ振興協会」が取り組むもので、選定・表彰された料理レシピを広く紹介・提供することで、消費者等への普及啓発を図り、ジビエの全国的な需要拡大と鳥獣利活用の推進を図るもので

応募締切 2020年10月31日（土曜日）まで

応募方法等は、 (外部リンク : 一般社団法人日本ジビエ振興協会ホームページ)



<https://www.gibier.or.jp/contest2020/>



スマート農業は農家のモチベーションを高める！

～令和元年度スマート農業実証プロジェクトに参画する米農家8名の動画を公開～

農林水産省は、スマート農業の社会実装を加速化するため、令和元年度スマート農業実証プロジェクトに参画する農業者（水田作）のうち、代表的な8名（兵庫県養父市（株）Amnak等）から実証効果や経験をインタビューし、とりまとめた動画を公開しています。

スマート農業実証プロジェクトは、ロボット、AI、IoTなど先端技術を生産現場に導入・実証し、経営効果を明らかにし情報発信することで、スマート農業の社会実装を加速化することを目的とした事業です。

これからスマート農業に取り組もうとする方や既に取り組んでいらっしゃる方に「実証農家の動画」をご覧いただき、今後の農業経営にスマート農業技術を導入するきっかけにしていただきたいと考えています。

実証農家の動画は、こちらからご覧ください。

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/jissho_seika/r1_seika_1.htm



《農業者の皆さんへスマート農業に関する現状や課題についてのアンケートのお願い》

上記の動画を視聴いただいた農業者の方を対象として、スマート農業に関する現状や課題について、アンケートを実施しています。スマート農業の社会実装を加速化させるための検討の参考とさせていただきますので、下記のURLよりアンケートにご協力よろしくお願いいたします。（回答に要する時間は、約3分です。）

https://www.contactus.maff.go.jp/affrc/form/smart_agri_survey200904.html



⑨ 道の駅とうじょう 農産物直売所「コスモスの館」

今回は、兵庫県東播磨地域の加東市東部の玄関口、中国自動車道ひょうご東条ICに隣接し、地元の新鮮な野菜や特産品の直売のほか、レストラン、コンビニを併設しており、多くの方の憩いとコミュニティの場として親しまれ今年4月に開設20周年を迎えた道の駅とうじょう 「コスモスの館」を紹介します。

「コスモスの館」は、平成12年4月、ひろがる夢と憩いの情報発信交流ステーションとしてオープンした道の駅とうじょうの中に地元加東市の生産農家さんが丹精を込めて育てた新鮮野菜や加工品等の農作物直売所

として開設、地元の新鮮で安心・安全な農作物が購入でき、地域の方々や阪神間、中国自動車道沿線の各地からも家族連れなど多くの方が訪れています。



この農産物直売所では、地元加東市の生産農家さん約120戸が登録されていて、生産農家さんが3世代で食べられている毎朝採れた新鮮なトマト、オクラ、きゅうり、茄子などをはじめ、地元の農地で収穫された農産物が出荷されており、四季折々の豊富な商品が並んでいます。

特に、年間を通して品質の良い季節の果物（いちご（11～6月）、もも（7月）、ぶどう（8～9月））が揃う直売所としてリピーターの方も数多く、野菜も10月は、黒枝豆、12月は、やまのいもなどが人気の商品となっています。

お米は、とうじょっ娘米（10月～地元加東市の新米）が人気で、その場で精米して販売されていますが、すぐに売り切れになるそうです。

今年は、新型コロナ感染症対策のため、各種イベントは自粛となっておりますが、例年8月には、すいか祭り、9月には、ジャンボかぼちゃ祭、10月には、黒枝豆の収穫祭、12月には、大感謝祭が開催され賑わっているそうです。これらのイベントの情報や最新の出荷情報などをSNSで発信されています。

日本一の山田錦の産地の加東市で新鮮な地元の農産物を届ける「コスモスの館」に、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

名称 : 道の駅とうじょう 農産物直売所 コスモスの館

所在地 : 兵庫県加東市南山1丁目5番地3

電話番号 : 0795-47-2400

営業時間 : 平日 9:00～18:30 土日祝 9:00～19:00

駐車場 : 大型車12台、普通車104台

HP : <http://www.tojo21.co.jp/index.php?pid=cosmos>



皆さん、コロナ禍で迎えたこの夏をどのように過ごされましたか。長い梅雨が明け、熱中症と新型コロナのダブルの対策で大変だったと思いますが、振り返ると子供たちが楽しみにしていた夏休みは短縮され、地域のイベントは取りやめ、レジャー施設の休園、お盆の帰省はオンラインとなりました。

そして、東京オリンピック・パラリンピックは延期され、夏の甲子園大会の中止でいつもと違う夏でした。これから秋は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底し、ひょうご五国の自然や食の逸品を満喫しながら、楽しみたいと思います。（K.H）

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL : 078-331-5924 FAX : 078-331-5177